

日時 二〇一九年七月三十一日 水曜日 一六時～一八時  
会場 茨城大学人文社会科学部 B201 教室

# 「しあわせ」

〇〇学は

にっついてこう考える

人文学／社会科学の歴史の中で、諸学問は「しあわせ」について長らく考えてきた。人を「しあわせ」にすることを研究の目標としてきた分野もあれば、「しあわせ」であるとはどのようなことか、なぜ人は「しあわせ」でありたいと願うのか、そのような課題に取り組んできた分野もある。あるいは、「しあわせ」でありたいと願う人々の行動を対象として分析を深めることも、学問的営為として積み重ねられてきた。それぞれその流儀・定義は異なるにしても、ほとんどすべての学問分野が、人の「しあわせ」について多少なりとも考えてきたはずである。本研究会ではこのような前提のもと、「しあわせ」をめぐる学問的営み自体をそれぞれの学問分野がどのように自己評価する（してきた）のか、それぞれの異なる学問分野の方に報告していただき、それについて参加者で議論してみたい。

## 塚原伸治

(民俗学)

「民俗学における「しあわせ」論の可能性——「仕合せのよい人又は家の話があるなら承りたし」

## 長田華子

(アジア経済論・開発経済学)

「経済学における「しあわせ」論のゆくえ——ポスト・グローバル化時代を生きるために」

## 田原彰太郎

(実践哲学)

「実践哲学における幸福と道徳——カントとともに幸福について(批判的に)考える」

主催:茨城大学人文社会科学部市民共創教育研究センター